

塩冶 地区

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩冶地区社会福祉協議会 事務所 塩冶コミュニティセンター内 TEL 21-0248
塩冶社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

◆◆ 日本文化体験の集い「日本の食づくり体験」◆◆

1月26日(金)、塩冶コミュニティセンター調理室において、塩冶小学校に通う外国にルーツのある児童を対象に授業終了後(16時30分～17時30分)、第2回目の「日本の食づくり体験」を行いました。

参加者は児童15人、保護者5人、NPO エスペランサ11人、社協理事6人の合計36人でした。

昨年はお好み焼きをしましたが、今回は来間理智子講師の指導のもと「散らし押し寿司」を作ることになりました。参加人数に余裕を見て50人分作れるよう、1時間前から社協理事により具材の下準備に取り掛かりました。

【作り方】(牛乳パックを6cm位にカットしたものを用意)
1 段目 牛乳パックに散らし寿司のご飯を1/3くらいまで詰め、その上にエビと錦糸玉子をのせます。

2 段目 パックの2/3までご飯を詰めて押し込め、魚でんぶ、きぬさやをのせます。

3 段目 最後にサクラでんぶを混ぜたピンク色のご飯を詰めて、全体を押し固めてから牛乳パックを取り外し、残りの具材を上に見栄え良く飾ります。

1人1個ずつの散らし押し寿司が出来上がり、各々作品(?)を見比べ、自画自賛することしきり…。出来上がった押し寿司に吸い物を添えて、児童代表の「いただきます!」の声で、にぎやかに和気あいあいと大盛況のうちに終える事ができました。(青少年育成部 高塚勝昭)



川跡地区社会福祉協議会との意見交換会

平成30年2月1日(木)、川跡コミセンにおいて、塩冶社協19名と川跡社協14名の合計33名で意見交換会を開催しました。川跡社協では見守りネットワークという組織の中に事業部やボランティア部があり、高齢者や障がい者、子育て支援等の事業が展開されています。

その活動では高齢者福祉の活動に加え、子どもたちが増えていることから子育て世代を対象とした事業や、高齢者が多くなった大きな団地がいくつかあることから、希薄になった近所づきあいをカバーするための見守り活動にも力を入れているとのことでした。

塩冶とは街も組織の成り立ちも違いますが、今後の社協活動に大変参考となる意見交換会でした。会で話題となった「高齢者の方に直ぐに役立つ言葉」(右表)を紹介します。(広報広聴部)



助けられ上手になる5カ条

- ①「助けて」と言える相手を作る
- ② 自分なりのSOSの発し方を工夫する
- ③ 普段は「助け上手」になる
- ④ 助け合いのグループに加入する
- ⑤ 「世話にならない」と家族に言わない



障がい者差別解消法研修会

平成30年1月21日(日)、塩冶コミュニティセンターにおいて、障がい者差別解消法研修会を塩冶社協と愛友会の合同で、社協理事16名、愛友会会員10名、一般の方5名の合計31名の参加者で開催しました。講師は出雲市福祉推進課 障がい者福祉係の杉原のみ子係長と渡部歌織主事です。説明の始めに県内の障がい者(各種手帳所持の方)は約50,000人、出雲市は約11,000人で16人に1人くらいの割合とのこと。身近にたくさん居られるのに、障がい者のことについてあまり分かっていないと改めて考えさせられました。



障がい者差別解消法は障がいのある人もない人もお互いに認め合い、共に暮らせる社会を目指すために平成28年の4月に施行されたもので、法の趣旨は・

①障がいのある方への「不当な差別的取り扱い」は禁止
(役所もお店や企業も法的義務=禁止)

②障がいのある方から申し出があったら、「合理的配慮」をすること(役所は法的義務、お店や企業は努力義務)

また事例をいろいろ説明いただき、参加者全員がこの法律の重要性とその時にどう考え、行動すべきかについて勉強することができました。

研修会の後半にはあいサポート運動の説明がされ、障がいを知ることを再認識しました。最後に手話の話もあり、全員で実際に手を動かしてみました。



また質問時間には、こういった出前講座をもっと広く一般の方に説明をお願いしたいといった声や日本の手話は日本語がベースで出来ており、手話は国によって違うジェスチャーとのこと。是非出雲市から世界で共通となるようなグローバルな手話を発信してはどうかといった意見もありました。(取材: 広報広聴部)

愛友会会員の声



障がい者差別解消法の研修会に参加して

今年こそ「見て見ぬふり」をやめませんか。勇気を出して声かけしましょう。

「どうかされましたか?」の一声!!

(愛友会 米井朝光)

昔から差別という事はありませんでした。障がいがある人とない人と何が違うのでしょうか。改めて考える機会をもてたような気がします。外見からは分からない障がいもたくさんあると思います。障がいがあるから出来ない事はたくさんありますが、障がいのない人でも出来ない事もあると思います。高齢化が進んでくるとみんなが何らかの障がいを持つようになると思います。

障がいのない人には分からないこともたくさんあると思います。お互いに相手の身になって考えていかなければならないと思います。障がいがある自分としては、自分らしく希望のある、また夢のある生き方が出来ればいいなと思います。(愛友会 伊藤義雄)

研修会当日の朝、同じアパート内の「住人の兄です。」という人より、「一人暮らしの弟の行方がわからなくなり、連絡がつかなくなりました。見かけませんか?」とお尋ねがありましたが、名前も分からず、お会いしたときに「おはようございます。」と挨拶をする程度でどんな生活をしておられたかさえ分からない人だったので、「そう言えば最近お見かけしませんね。」としか答えようが無かった。

大家さんに連絡しておられたようで、鍵を開けて中に入られ、やがて救急車が来て、タンカとAEDを準備したまま部屋に入らずに長らく外で待機しておられ、あれ?と思いました。今多発している孤独死について、改めて考えさせられました。

まずは個々が意識改革をし、紙一重で不幸を招くであろう個人情報保護法なる法律を良い意味で地域を巻き込んで、お互いを理解しようとする努力が必要ではないかと考えます。それが障がい者を取り巻くいろいろな問題の解決の引き金になり、周りの人への配慮やサポートに繋がって行くものと思います。(愛友会 小川悦子)

ヘルプカードを知っていますか?



障がいがある方が困っている時に「手助けしてほしいことを伝える」ためのカードです。提示があった時には支援を!

- ・電車・バスの中で席をお譲りください。
- ・駅や商業施設等で声をかけるなど配慮をお願いします。
- ・災害時には安全に避難するための支援をお願いします。

高西 サロン会

師走の門松作りと 蕎麦打ちの実演

「お久しぶり、元気だった」「この前、門松作りをしたと思っていたのに、1年経つのが早いわね」と賑やかな声が交わされたのは、高西ふれあいサロン会。高西公会堂で12月24日(日)午前10時から開催され、塩冶社協中尾会長も含め34人が参加しました。



今回のサロン会は、門松作りの前に、出雲そばりえの会の小村晃一会长を講師に迎え、蕎麦打ちの実演と出雲蕎麦の特徴、市内の蕎麦店の情報など、ユーモアたっぷりのお話を聞かせていただきました。

「蕎麦粉1.2キロ、水600cc、これで10人前です。まず半分の水を入れ、水廻し、徐々に水を入れながらこねていきます。ここが一番体力的に辛い作業。名人と言われる高橋さんは弟子に任せています」

こねの次は、のし、きり、リズムカルな作業で美しい蕎麦が出来上がりました。



蕎麦が茹で上がる前に門松作り、「この竹は何処の竹」「ゴルフ場のいづも大社カントリーの近くの竹です」「準備が大変だったでしょう」笑い声が役員に掛けられました。手際良く作る人、久しぶりに聞きながら思い出す人、友達に頼まれたので2個作る人、次々と可愛いミニ門松が出来上がっていききました。



門松作りが終わると茹で上がった蕎麦に舌鼓、「やっぱり、打ちたて、茹でたての蕎麦は美味しいね」「もう1杯おかわり」と楽しく賑やかな会となりました。

(理事 永岡博之)

宮松・築山 サロン会

正月飾り作りと 昼食・ミニゲーム

12月23日(土)、師走恒例の「正月飾り」を宮松公会堂にて小学生を含む30名の参加者で開きました。

宮松・築山地区では年末には、茶飲話会及び世代間交流として、小学生と一緒に「正月飾り」を作って来ましたが、何となく「マンネリ化」の兆候もみられ、改良の余地はないかと、討議をしました。

色々な意見が出る中、定期的に検討会を開き、順次改良をして行くこととしました。次に社協理事2名と福祉委員2名の4名で事前の買い物、役割分担を決め当日をむかえました。

案内状では10時開催としていましたが、早い人は9時頃から集まり始め「盛況の予感!」

まず正月飾り作り一例年の竹筒からプラスチックのものにしたら作業が楽になりました。約1時間で完成し、それぞれが出来上がった作品を比べて談笑し、大いに賑わい、まずは大成功(?)



次に会場をコミセンに移し、昼食会です。

「やすらぎ会」の皆さんに用意していただいた「おにぎり」と「豚汁」をいただき、食事後はみんなでゲームを楽しみ、散会しました。

最後まで皆さんニコニコ顔で満足していただけたようで、主催者側として大変喜びを感じた1日でした。



最後に食事作りをしていただいた「やすらぎ会」の皆さん、材料の調達、加工、組立て等にお手伝いをいただいた皆さん、大変ありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

(理事 坂根勝男)

ご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から塩冶地区社会福祉協議会に対し、香典返し及びご寄附をいただきました。

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は、塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。今後とも、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

(12月1日から2月28日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名	故人名	区域名	寄附金額

※ 掲載欄の 一は、掲載を希望されない方

***** 編集後記 *****

今年の平昌オリンピックは1998年長野大会のメダルを上回る最多であり、日本選手が活躍する姿をみて本当に感動し、とても大きな勇気と元気をもらった気がします。表彰台に上がった選手はもちろん、全選手とそれを支えるスタッフの一人一人が最高のプレーを見せてくれました。一部でオリンピックの政治利用も話題となっていますが、スポーツを通じて平和でより良い世界を目指すというオリンピックの理念を忘れずに、みんなで競技を楽しめる平和な世界であってほしいものです。

今年は大変な雪でどこの家も除雪や買い物でとても苦労されたと思いますが、3月に入るとだんだん暖かくなります。身体を動かし木や草花の芽がほころぶ春を楽しみたいものです。(理事 福間仁範)

この「地区社協便り」は、出雲市社会福祉協議会からの助成金を財源の一部として発行しております。

高齢者話食交流会



2月22日(木)、高齢者・障がい者福祉部は恒例の話食交流会を塩冶コミュニティセンター調理室で開催しました。参加いただいた高齢者の方は12名、社協理事・福祉委員を含めて総勢23名で行いました。

調理指導に地域活動栄養士の錦織まゆみ先生をお迎えし、旬の物を食べて、高齢者の体力維持を図りましょうとのテーマでしたが、この冬は野菜が高騰しているのでこんな時には、乾物や缶詰を利用しても良いとのこと。

本日の料理は、さつま芋ごはん・なのはな汁・さば缶の味噌煮・切干とひじきの煮物、そしてデザートとしてバナナフランベの5品でした。最初に先生からレシピの説明、今日選んだ食材の意味、食材の切り方、調理の下ごしらえの工夫また、塩はミネラルを含んだものを使用する等のお話がありました。

先生の説明の後、参加者に社協理事、福祉委員のメンバーがかわり、4班に分かれてわいわいガヤガヤ楽しそうに話をしながら、手際よく調理が進みました。



各班ともお昼の時間にはレシピどおり料理が出来上がり、それぞれに出来栄の評価です。



【メニュー】左上から
・バナナフランベ
・切干とひじきの煮物
・さば缶の味噌煮
・さつま芋ごはん
・なのはな汁



最後に全員で会食です。料理の出来栄や味など感想を交わしながらおいしくいただき、終始楽しいひと時を過ごしました。(取材 広報広聴部)